

青色申告を始めましょう！

角田市農業振興公社（角田市農業青色申告会事務局）では、農業者の方にメリットが多い青色申告の推進を行っております。

○特別控除が受けられます

青色申告をすると、最高で65万円の特別控除を受けられるほか、損失額の繰越しや繰戻しなど様々なメリットがあります。

○収入保険に加入できます

青色申告者は、自然災害や価格低下などによる、販売収入の減収を補填する収入保険に加入できます。

○簡易な方式もあります

簡易な方式の青色申告は、白色申告で整理した帳簿の他に、現金出納帳、売掛長、買掛長、経費帳、固定資産台帳を整備し、日々の取引を残高まで記帳すれば行えます。

詳しくは別紙折込チラシをご覧ください。

角田市農業青色申告会に関するご連絡は、角田市農業青色申告会事務局（角田市農業振興公社）までご連絡ください。
TEL：0224-63-2328

新型コロナウイルス感染症で実施できなかった公社事業について

新型コロナウイルス感染症対策に伴い、次の事業は、中止となりました。

【あぶくま農学校土の塾】

例年8月下旬に3泊4日の日程で、市内農業者宅に宿泊して開催してきましたが、主な参加者である東京農大の学生について、大学として学生の研修等の派遣を中止としたことにより、今回の土の塾は中止となりました。来年度については実施する予定です。

【目黒区関係の交流事業等】

- 枝野小学校と目黒区下目黒小学校の農業体験学習
 - 枝野小学校のみで実施
 - 田植え 5月8日(土)
 - 稲刈り 10月2日(土)
 - 西根小学校と目黒区月光原小学校の農業体験学習
 - 西根小学校のみで実施
 - 田植え 5月15日(土)
 - 稲刈り 9月18日(土)
 - 目黒角田絆交流事業
 - 田植え体験中止
 - 稲刈り体験中止

○目黒区消費生活展への出店
・今年度は、出店を行わない形での開催となったため、出店しませんでした。

○目黒区商工まつりへの出店
・まつり中止により出店しませんでした。

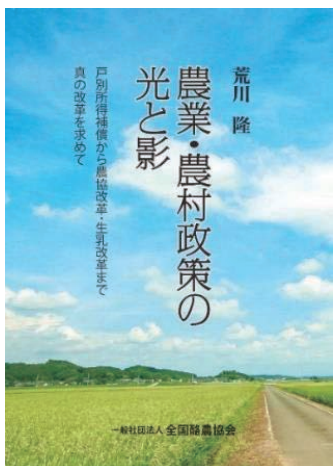
今年度は、残念ながら多くの事業が実施できませんでしたが、今後の新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、関係機関と調整をし、開催や参加ができる事業については、公社としても協力し、参加していきます。

荒川隆顧問の著書『農業・農村政策の光と影』好評発売中

本公社の荒川隆顧問が、一般社団法人全国酪農協会から『農業・農村政策の光と影』と題して、著書を出版しておりますので、お知らせいたします。是非、購入下さい。

- 販売価格 1,650円
- B5判 162頁
- ※書店での取り扱いはありません。
- 申込先
一般社団法人全国酪農協会指導部

電話 03・3370・7213
申込先のHPからも購入できます。
左記のコードを読み取って、ご注文下さい。



荒川隆（あらかわ たかし）
1959年 宮城県生まれ
角田小学校、角田中学校、角田高等学校、早稲田大学を卒業
1982年 農林水産省入省。食糧部長、畜産部長、総括審議官、大臣官房長、農村振興局長を歴任
2018年 退官
現在 在 角田市農業振興公社の顧問及びJA全農の経営管理委員、食品産業センター理事長を務める。
申込先HPのURL：http://www.rakunou.org/publish/publish_shinpo.html

農業振興公社だより

ふたたび人づくり元年



理事長 黒須 貫

明けましておめでとございます。委員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響が続きました。主食用米需要減に起因する米価の下落で稲作農家は打撃を受けましたし、目黒区の小学生との農業体験交流など本公社の交流事業等も再開できませんでした。また、春には凍霜害が発生し、ナンヤリンゴなど特産果樹に被害が出てしまっております。

一方、令和元年東日本台風によ

る農業施設災害は令和3年度中に復旧が完了する見込みとなり、安堵しているところであります。また、コロナ禍の中でも交流事業復活を模索し、自治体間、民間団体間等の調整が始まっていることは光明と言えるでしょう。

コロナ禍も3年目です。いつまでも停滞してはいられません。コロナ禍の中、農業の大切さを痛感しました。気候変動の中、持続可能な社会づくりが急務です。アフターコロナの社会の基礎は農業であり、あらためて角田市の基幹産業は農業であるべきだと確信します。

現在、「角田市第6次長期総合計画」の策定がための段階にあります。重点プロジェクトの柱に「市民力」として人づくり、「地域資源フル活用」の一番に農業をあげています。本公社の設立目的

は「農業の後継者育成」であります。今こそその原点に正面から向き合うべき時と考えます。先の理事会で「角田市地域おこし協力隊員活動支援事業実施要綱」について決定し、「農業の振興に関する活動」を行う地域おこし協力隊員の受け入れ支援団体になることにいたしました。さらに、会議の中で子弟の就農支援の必要性について意見が交わされました。

いすれにしても、大変厳しい状況下、背水の陣で臨むこととなります。今後、その布陣や戦略について検討し実行していくわけですが、委員の皆様には、どうか陣営に積極的に参加いただき、共に歩んでいただきたくお願いいたします。

結びに、皆様のご健勝と益々の活躍、そして実り多き年になりますことを祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

第3回理事会、第4回理事会を開催

令和3年9月2日（木）に令和3年度第3回理事会を開催し、1名の正会員入会承認について審議し、採決の結果全員一致で入会が承認されました。

令和3年12月6日（月）に令和3年度第4回理事会を開催し、4件の議案を審議しました。

当社が角田市の地域おこし協力隊員の活動支援団体として登録し、隊員の活動を支援していくための計画の一部変更と補正予算及び支援事業の実施要綱の制定について、並びに諸規程、要綱・要領の一部変更についての議案について審議しました。それぞれの議案について採決の結果、全議案全員一致で承認され、原案どおり決定されました。

ほかに9月から10月に実施した「新規就農支援事業に係るJA園芸生産部会員アンケート調査」の結果について報告しました。

あぶくま農学校農業体験学習「秋」各団体で稲刈り

～月光原小学校・西根小学校～

西根小学校では9月18日(土)に全校生徒49名で「あぶくま農学校」稲刈り体験を行いました。

今年も新型コロナウイルス感染症の影響により月光原小学校児童との稲刈り等の農業体験交流はできませんでしたが、西根っ子たちは雨天の中、足元がぬかるにも関わらず、雨合羽を着て笑顔で稲刈りを行いました。

体育館において「稲刈りはじめの会」を行い、子ども会育成会の皆さんによる稲刈りの指導、天候が悪かったため最初に八巻校長が児童代表に「稲刈り体験証明書」を渡した後、学習田に移動し全員で集合写真を撮影し、稲刈りが始まりしました。

いつもはほとんどの面積を手刈りしていましたが、あいにくの雨だったので1人1束を刈り取って学校へ運び、はせ掛けできるように稲をまとめ、終了いたしました。



～下目黒小学校・枝野小学校～
枝野小学校では10月2日(土)に3年生以上43名により「あぶくま農学校」稲刈り体験が行われました。
今年度も新型コロナウイルス感染症参加できず、枝野小学校のみの稲

刈り体験が行われました。

学習田の前で稲刈りはじめの会を開催し、黒須市長の挨拶後、農協青年部による稲刈り指導があり、つや姫の稲刈りが始まりました。
天候にも恵まれ、稲刈り風景を下目黒小学校に届けるためドローンによる撮影を行いながらの稲刈りとなり、児童たちの生き生きとした様子と下目黒小学校へのメッセージが撮影されました。来年度で閉校となる枝野小学校としては、交流できるのは来年が最後となりますので、実現できることを待ち望んでいるようでした。



～北郷小学校～

北郷小学校では、10月7日(木)5年生24名での稲刈り体験が開催されました。

学習田において「稲刈りはじめの会」及び地元農協青年部による稲刈り指導を行った後、手刈りによる稲刈りがはじまりました。
刈取り後、まとめた稲をコンバインに運び脱穀を手伝い、コンバインによる刈取りを見学し、早さに驚いていました。

その後、米づくりについての質問時間が設けられ、児童は真剣に田植えから収穫までの稲の生育や管理方法等について、活発な質問が時間を過ぎても行われ子供たちの思いが伝わってきました。
最後に稲刈り体験の感想発表を行い、終了しました。



～目黒・角田絆交流～
角田市農業青色申告会農業簿記操作研修会を開催

目黒・角田絆交流では今年も新型コロナウイルス感染症防止の影響で交流事業は行われませんでした。が、交流田の稲刈りを9月20日に行いました。

11月27日(金)、角田市農業青色申告会と角田地域担い手育成総合支援協議会との共催で農業青色申告会の会員を対象に、農業簿記操作研修会を開催しました。
研修会には午前、午後合わせて9名の会員が出席しました。

農業簿記ソフトのソリマチ株式会社より講師をお招きし、「ソリマチ農業簿記1」と研修用テキストを使って操作研修を行いました。
研修会では、仕訳の確認、集計作業、減価償却資産登録、決算仕訳、青色申告決算書の出力の仕方などテキストを見ながら、わかりやすく説明して頂きました。

長時間の研修でしたが、出席者は、入力している中で、疑問に思っていることを質問するなど、熱心に受講されていました。



△農業簿記操作説明会(午前)の様



△農業簿記操作説明会(午後)の様

～黒須貫市長と語る～
角田市農業経営者会議農政懇談会

角田市農業経営者会議(森谷茂会長・会員48名)は、12月3日(金)「仙南シンケンファクトリーセミナー」にて、黒須市長をお招きし角田市の農政の課題などについて、農政懇談会を開催いたしました。

この懇談会は、農業経営者会議の事業活動の一環として開催したもので会員14名と角田市から黒須市長のほか、堀米農林振興課長、菅原係長らが出席しました。

森谷会長、黒須市長の挨拶後、森谷会長が座長となり、角田市の今後の農政、担い手の確保と育成、現状に対する支援策などについて意見交換が行われました。

市からは、見直しが行われている「角田市第6次長期総合計画(案)」の方向性と重点プロジェクトについて、市民力・地域共生・地域資源フル活用を踏まえてSDGsの理念に沿った有機資源循環型農業を目指しながら安心していきいきと誇らしく暮らせるまちづくりを目指していきたいとの説明

がありました。

次に担い手の確保と育成及び支援策等については農業体験、移住体験が可能なゲストハウスの必要性を前向きに検討しながら方向性を現在策定中であること、人・農地プラン検討会の際に各地区において助成金の説明会を開催するのに参加していただきたい旨の話がありました。

会員からは角田市独自の農政、中山間地における不耕作地の地目変更及び害虫・害獣駆除に対する助成要望などが出され、活発な意見交換が行われました。

経営者会議では3月頃に講師を招いての講演会開催を予定していますので、より多くの皆様にご参加いただきたいと思います。



意見に答える黒須市長